

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Dietary Differences in Male Workers among Smaller Occupational Groups within Large Occupational Categories: Findings from the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル: 同一職業群内における詳細に分類した職種間での食事摂取の違い

ユニットセンター(UC)等名: 福岡UC  
サブユニットセンター(SUC)名: 産業医科大学SUC

発表雑誌名: International Journal of Environmental Research and Public Health

年: 2018 月: 5 巻:

筆頭著者名: 田中 里枝  
所属UC名: 福岡UC

目的: これまでの食事調査において職業は大きな職業群として分類されることが多かったが、同一職業群内でも詳細に分類した職種間においては異なる食事摂取傾向を示す場合があるかもしれない。本研究では同一職業群内において詳細に分類した職種間での食事摂取の違いを検討することを目的とする。

方法: エコチル調査に参加している男性労働者38,656人を対象とした。栄養素摂取状況は食物摂取頻度調査票を用いて評価した。職業は日本職業分類に基づいて分類した。同一職業群(日本職業分類大分類)ごとに詳細に分類した職種(日本職業分類中小分類をもとに作成した分類)を用いて栄養素の食事摂取基準の達成状況についてロジスティック回帰分析を用いて解析した。

結果: “専門的・技術的職業従事者”、“サービス職業従事者”、“農林漁業従事者”で職種間の違いを多く認めた。“専門的・技術的職業従事者”内で教員は看護師と比べてカルシウム、ビタミンAの推定平均必要量、カリウムの目標量を満たし、建築・土木・測量技術者と比べて飽和脂肪酸の目標量を満たさない傾向等が見られた。建築・土木・測量技術者は看護師と比べて食塩の目標量を満たさない傾向等が見られた。“農林漁業従事者”内で農業従事者は林業従事者・漁業従事者よりカルシウムやビタミンCの推定平均必要量を満たす傾向等が見られた。

考察:(研究の限界を含める) 本研究で認められた職種間の食事摂取の違いは職場の組織的因子(労働時間、交代制勤務等)や食物の入手可能性(給食制度、自作農家等)が関連している可能性を考えた。同一職業群内において、詳細に分類した職種ごとに仕事内容や職場環境は様々であることを考慮すると、食事調査においては詳細な職業分類が有用であるかもしれない。本研究の限界として、対象者が男性のみであること、自己申告による質問票調査であること、自己選択バイアスがあること、横断研究であることが挙げられる。

結論: 同一職業群内においても職種間で食事摂取状況が異なることを踏まえると、労働者の食事調査では詳細な職業分類が有用と考えられる。本研究結果は労働者の食事改善対策に貢献することが期待される。